

名古屋 文化 情報

2012
8
Aug.

No.341
NAGOYA
Cultural
Information



Contents

八月のうた 2
 随想 秀和代 現代舞踊 3
 視点 創立40周年を迎えた「七ツ寺共同スタジオ」
 まとめ/はせひろいち 4
 この人と…ズーム・アップ
 田村 響さん 聞き手/小沢優子 6
 ピックアップ 8
 おしらせ 9

「この人と…ズーム・アップ」は今後の活躍が期待されるアーティストを取り上げる新コーナーです。随時掲載します。



表紙

作品

「Floating world 1,2,3」

(2000年/各105cm×75cm/ダイレクトプリント/アルボリックマウント)
 佐賀町にあった小山登美夫ギャラリーでの個展に出品した作品で、当時はフィルムカメラで撮影していました。目に触れた様々なものをカメラで撮り、何を撮ったか忘れるほど撮って、蓄積されたリアリティの断片を重ね合わせて作品を作っていきます。視覚がとらえたイメージと、曖昧で重層的で漂うような意識下のイメージが交差します。

櫃田 珠実 (ひつだ たまみ)

1958年 香川県高松市生まれ
 1984年 愛知県立芸術大学大学院美術研究科修了
 1997年 英国王立芸術大学大学院 (RCA) 修了
 1998年 エプソンカラーイメージング大賞 写真部門大賞受賞
 2004-05年 「新花論」/東京都写真美術館
 現在 名古屋芸術大学デザイン学部准教授

八月のうた
涼風

辻美智子

涼風の一直線に来る運河

おしゃべりの色を違へてソーダ水

親しさに涼しき距離を置くことも

憂きことの二つや二つ金魚玉

秋めける風に解ほどきし旅疲れ

八月といえば歳時記では既に秋季となる。今年の立秋は八月七日である。

「秋来ぬと目にはさやかに見えねども、風のおとにぞおどろかれぬる」藤原敏行(『古今集』巻四)——暑いさ中にふと感じた季節のうつろいを、情感豊かに表現する詩歌の世界：花鳥諷詠とは人間を含めた万象を詠むことである。

五・七・五という短い詩に季節の力を借りて喜怒哀楽を託す。そこに俳句が生まれる。

「牡丹」主宰

随想

自然から学ぶこと



ひで かずよ
秀 和代 (現代舞踊)

今まで私は、都会の顔はどんどん変わるのに田舎の顔はちっとも変わらない、と信じていました。

けれどもそれは大きな間違いでした。田舎の景色は一瞬たりとも止まってはいないことに気が付きました。

樹木の葉、草1本、風の匂い、すべてが生きていて“今”は時々刻々と変化しています。昨日の蕾は花開き、緑の葉っぱたちも同じ色で留まっています。風の匂いも方向も…

庭の蛙も、小さな虫たちも日々成長し、木々には鳩が巣を作ります。つい先日は同じ庭の木でデートをしていた鳩2羽が、今日はもう小さな卵を大切に育てています。親鳩と私は、時々目を見合わせるがあります。「頑張ってるね」と、私が話ると親鳩の小さな瞳は不思議と人間に恐怖を感じていないのか、瞬きもせず私を見つめてくれます。こんな変化のある毎日は、感動以外に何もありません。

自然の力は凄いと思います。土に触れると人の心が、気が、休まります。その地に種を蒔くと芽が出て、葉が出て、次に花が咲き…花が散ると実がなります。その実は太陽と土と雨と、青い葉っぱの味がします。小さな実に大きな宇宙を感じる

ことができます。人の心に反映される生命の源なのでしょう。

とても簡単なことなのに、日々の雑務に追われ、忘れられている自然との対話。

遠くの山を見て、風を感じて、ぼんやり見上げる空には、今まで見たことのない鳥や蝶が、ひょっとしたら飛んでいるかもしれません。

素直な心で物事を見、考え、感じることの大切さを“自然”から教えてもらっています。今さらながら、今を生かされていることに感謝せずにはいられません。

自分が舞踊を通して、最終的に何を表現したいのか、自分にしかないテーマが私にはまだ、見つかりません。手探りで創作して、これだけ作品を創っていても、心の中の違和感はいまだに続いています。私は創作者としては失格かな〜?と、自問自答しています。

自然が一瞬たりとも同じ景色ではないのと同じように、自分の経験も心も、日々変化していることを信じ、感謝できる自分でありたいものです。そして、舞踊を通じた、新たな自分探しの旅も、まだまだ続いていくことでしょう。

創立40周年を迎えた「七ツ寺共同スタジオ」 偉大な足跡と今を問う記念公演

大須の「七ツ寺共同スタジオ」が“名古屋小劇場のメッカ”と言われる所以は、知名度や観客動員数などではない。民間による運営なのに、公共性のある「場」として人が自然と足を向け、集う魅力にこそあるのだろう。40周年を迎えた小屋主の二村利之さんにお話を聞きながら、9月の記念公演「東京アパッチ族」の稽古場風景もあわせりレポートする。

(まとめ:はせひろいち)

◇創立の1972年と旅公演の支援

「今から思えばあの年は、名古屋の街が何かしら文化的にぐぐっと動き出そうとした、そのきっかけの年でもありましたね」と話すのは代表の二村利之氏。「名古屋市民会館や名演会館がオープンし、情報誌ぴあが発刊。名古屋プレイガイドジャーナルも創刊しています」。そんな熱を帯びた年、七ツ寺共同スタジオの柿落とし公演は東京から来た「演劇団」。今もなお「演劇界の異端児」として君臨する流山児祥氏率いる集団だった。停電や乱入騒ぎなど伝説的なエピソードの中、何とか無事小屋としてのスタートを切った。「当時から“来るものを拒まない”基本姿勢はありましたね。何でもアリみたいな」と二村氏。

余談だが、今でも東京や大阪で演劇人と話していて名古屋の演劇事情の話題になると決まって「七ツ寺さんは最近どうよ?」とか「二村さんは元気ですか?」と聞かれる。そして、それは決してベテランの人達に限らず、若手演劇人も多くが関心を寄せている。一見不思議な現象だが、設立当初からの上演リストを見ればおのずと納得がいく。先述の流山児氏に始まり、故つかこうへい氏の率いる「劇団暫」がやはりオープンのに公演し、その後も内田栄一、山崎哲、佐藤B作、岡部耕大ら、後に演劇界を支えていく人物が、旅公演のラインナップに七ツ寺を組み込んでいく。それら



七ツ寺共同スタジオの外景 街灯の看板にも注目

は綿々と世代的に受け継がれ、やがて「名古屋と言えば七ツ寺」の伝説的な文言になっていったのだろう。

◇継続を支えた観客と小屋の企画力

「でも、この40年を一番根底で支えたのは、やっぱりお客さんだよ。名古屋の風土の持つある種熱心な観客力。これが一番でしょう」とあくまで謙虚な二村氏だが、もちろんそこには小屋としての仕掛けもあれば努力もある。今なお継続的に発刊されている「七ツ寺通信」は観る者の批判性を育み、また、5年ごとに行われてきた創立記念の自主事業は名古屋在住の演劇人を立体的につなぎ、多くの関係性を育ててきた。

20周年に白川公園で行われた野外劇「高丘親王航海記」は今でも多くの演劇人に語り継がれ、25周年を記念して発刊された「空間の祝杯」は20世紀末の同時代史としてスタジオの記録にとどまらない歴史的な文化資料となっている。

「70年代の北村想、80年代の天野天街、90年代の君たちみたいに、常にその時々旬な人材に出会い、関わってこられたことも大きな要因」と振り返る二村氏。確かに、いろんな時代を反映した表現者や多くのスタッフが七ツ寺に関わり、ココから育っていった。そして、その中心にいつも座っていたのが二村さんでもある。そこには先述の「何



二村利之氏 小屋名物の掲示板前にて

でもアリ」の精神が常に根底にあり、それに共感した人材がある種の「経済原理を超えた価値観」で繋がりあってきた歴史でもある。民間でありながら公共的な場であり続ける七ツ寺の継続意義は計り知れず、全国的に見ても極めて稀な、奇跡的な存在ではないだろうか。



壁際にキャストがひしめきあっている読み稽古

◇13年前の戯曲であえて今を問う

そんな七ツ寺共同スタジオが40周年記念に選んだのは、今や演劇界自体を力強くけん引する坂手洋二氏が、1999年に書き下ろした「東京アパッチ族」。思えば坂手氏率いる燐光群も七ツ寺を古くから使い、今なお旅公演を活動の軸に構える、言わば七ツ寺チルドレンの代表格でもある。

「書かれたのが13年前なのに、地震による原発事故を想定し、避難民が新宿に詰めかけホームレス化するという、予見性に満ちた作品。演劇的な力強さに満ちた、まさに“40周年の花火”のような作品ですね」と二村氏。演出を担当する小熊ヒデジ氏の起用に関しては「彼は高丘親王からの盟友だし、なにせ百人弥次喜多で大集団を束ねた経験もある。彼しかいないと思った」と話す。これに対して、小熊氏は「出演者が多い分だけ大変だけど、楽しさも比例してきている」との弁。自ずと期待は高まっていく。



緊張の中にも時おり笑いが…

◇節目を刻む世代を超えた役者陣

「東京アパッチ族」の稽古がなされている長者町の稽古スペースはかなりレトロな空間。出演者は総勢32人で「なかなか全員が揃わない」（加藤智弘プロデューサー談）とは言うものの、キャストが座れば、稽古場の壁際はびっしり埋め尽くされてしまう。今回の取材訪問時はまだ読み稽古の段階であり、車座になった面々からは、緊張と静かな熱意が伝わってくる。それをユーモアも含め独特で柔らかい空気に作り出していくのが小熊さん。既に演出の仕事は始まっている。

顔ぶれをかいつまんで、(所属集団名など割愛で)紹介するなら、大御所に火田栓子、矢野健太郎、ベテラン勢にジル豆田、久川徳明、吉森治ら、中堅にヒート猛、関戸哲也ら、若手では今津和也らといった面々。まさに「40年の歴史を祝う」に相応しい、世代を超越した感がある。これもまた祭りの大切な要素なのだ。

用意されたホワイトボードには登場人物と役者の名前がびっしり書かれて、いろいろ組み合わせを変えて読み稽古が進んでいくのだが、この日一番驚いたのは、以下の小熊さんの発言。「ねえ、最終的に〇〇役は誰だろう？ 僕は◇◇君も捨てがたいんだけど…」。皆が談笑しながらボードを見つめる。つまりこの時点でまだ未定のキャストイングに関して、なんと、その配役すらを全員で決めようとしているわけだ。

40周年という一地点に向けて、たまたま世代を超えて集まった32人に対し、あくまで公平に、そして柔らかく集団を模索する小熊氏ならではのシーンであり、きっと彼の演出の本質なのだろう。

この稽古場での愛すべき光景が、40年という時間の流れを「何でもアリ」の精神で柔軟に取り組んだ七ツ寺、もしくは二村さんの想いとシンクロした…ように、見えた。9月1日～10日の本公演12ステージが待ち遠しい限りである。



キャスト決めに悩む小熊氏とそれを取り巻く役者陣

二人と... ズーム・アップ



ピアニスト

田村 響さん

高みをめざしてひたすらに

安城市出身のピアニスト、田村響さんは1986（昭和61）年生まれの25歳。5年前にロン・ティボー国際コンクールで優勝し、以来世界を舞台に演奏活動を展開している。この若き大器が今何を思いながら音楽に向かっているのか。4月の名古屋フィルハーモニー交響楽団定期演奏会に出演される機会をとらえ、本番の前日、リハーサルが行われた名古屋市音楽プラザを訪れ話をうかがった。

（聞き手：小沢優子）

◇のびやかに音楽を

メディアの取材には慣れていらっしゃると思いますが、とインタビューの冒頭で言うと、「取材はいつも新鮮な感じですね。慣れてあたりまえのようになりたくないんです。自分も常に変化しているので、毎回新たな自分という感覚で...」。国際的に活躍する田村さんは、風格を備えながらも気取りのない自然体の若者、という印象である。

父親はピアノの調律師で母親はピアノの教師。そういう環境なので小さい頃からピアノに親しんでいる。母親はピアノに関して余計なことは言わず、機会だけを与えてくれて、あとは子どもの主体性にまかせてのびのびと音楽を学ばせてくれた。ちなみに、二人の兄も現在音楽の仕事に就いていて音楽一家の趣。しかし、家で音楽の話をすることはほとんどなく、ごく普通な家庭だという。

高校は愛知県立明和高校音楽科に進む。クラスに男子は二人だけ。男が少ないのでかえって好きなように行動できたし、同級生や先生方は温かく、和気あ



生後7ヶ月

いあいとした雰囲気。楽しい高校生活だった。卒業後はオーストリアのザルツブルク・モーツァルテウムに留学する。



故園田高弘氏と奥様とともに
第18回園田高弘賞ピアノ・コンクールで園田高弘賞第1位を受賞

◇ロン・ティボーで優勝

留学から2年後の2007（平成19）年、パリで開催されたロン・ティボー国際コンクールで優勝し、一躍脚光を浴びた。優勝後は音楽だけでなく衣食などの面にも目を向けもっと自分を成長させなければ、という気持ちを持つようになったが、華やかな栄光の一方で苦しさもあった。コンサートは増えるのに、先生や頼りになる人が身近にいないすべて一人でやっていかなければならず、はたして認めら

れるのだろうかという葛藤や重圧もあり、疲労がどんどん溜まっていった。湿布やマッサージをしながらの生活。自分を取り巻く状況の変化に何とか対処しようともがく状態は2010年頃まで続いた。

「最近少しずつ、自分へのプレッシャーをうまく解消させ、音楽を素直に表現できるようになっているのではないかと思います。(模索してきた)さまざまなことが今いい流れになっていて、この方向で進めていきたいです。」

◆もっともっと経験を

コンサートは1年に30から40ぐらい。それらを中心にして予定が組み立てられていく多忙な日々の中で、新しいことにもどんどんアプローチしている。昨年は室内楽を演奏する機会に恵まれ、今年の夏もトリオを同じメンバーで演奏する。2年ほど前からは、指揮者を志している友人と一緒に勉強する時間を持ち、指揮者の観点からの作品のとらえ方を学んでいる。自分の感情ではなく客観的な視点で曲を眺められるようになり、音楽づくりが迷いのない明快でシンプルなものになってきているのはその成果である。

また、近頃はレッスンや講演会などの仕事も体験している。安城での講演会ではパソコンのパワーポイントの利便さを実感。使いこなせるようになろうと決意した。

新しい経験や出会いの積み重ねによって自分を確立できるかもしれないので、今はもっともっと多くのことをやっていきたい、と田村さんの意欲は尽きない。



恩師のクラウディオ・ソアレス氏とともに

◆オフの時は

親元を離れて暮らしているので、家事はすべて一人でしている。料理は最初は作らなかったが次第にやるようになり、にんにくを丸々一個使ったトマト入りのパスタやフルーツ・ポンチなどを。食事をすると体の中にエネルギーが入ってきて疲れがいやされ、またがんばろうと力がみなぎってくる。食事は大切。おざなりにせず、自炊の時も外食の時もいいものを、と心がけている。

2年前に運転免許を取ったのでぶらっとドライブに出かけることもあるが、気分転換は何といっても家ででのんびりと過ごすこと。普段あれこれと考えてしまいがちなので、頭を使わずからっぽにするのが最高のリフレッシュ法である。誰にも会わず外にも出ず、家でゆったりとくつろぐ。そうやっ

て一日過ごす、次の日ピアノを弾きたくなり、すっきりとした意識でピアノに集中できるのだ。

◆すべてを糧に

心に残っているコンサートはありますか、と尋ねると、「ほぼ全部」とのこと。

「うまくいかなかったものも自分にとって大切かもしれない。すべてが自分の糧、進んでいく歩みの一つなので全部印象に残っています。客観視しようとしているんでしょうね。あの時はもがいて窮屈になっていてどうすればいいかわからなかったな、とか、それはどんな意味があるんだろうか、とか…、自分の成長になるように全部から吸収したいと考えているんです。」

去年の夏にモーツァルテウムでの勉強は終え、もう学生ではない。ザルツブルクの家はかなり整理したが、これから先どこに行き、どこを拠点にするのかは未定である。もっとも、どこに落ち着くにしても、何をしたいのか、どのように過ごすのが重要であるし、また、ふとした時の人との出会いや話によって進む道は突然決まるので、あまり深く考えてはいない。目先のことを考える前にまず自分に力をつけて最強の状態にしておけば何かが近づいてくるのではないかと田村さんは感じている。

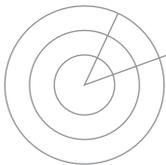
めざすのは自由自在に音楽を響かせるピアニスト。「すべてが体の中にあってどんなことでもできてしまうようなピアニストになりたいですね。でも、まずピアニストである前に一人の人間としていろいろな経験をして成長をして、成長していったものが自然に音楽に現れてきたらいいなあと思います。音のパレットもひたすら色を豊かにしていきたいですね。」

日本に帰るとすぐに安城の実家に戻り、そこを起点にしてコンサート活動を行う。東京や関西の場合はホテル住まいになるが、名古屋でのコンサートは当日の朝実家から直接出かけることになるので、いつもとは違った気分である。地元名古屋のコンサートは、親近感を抱きつつも、だからこその緊張があるという。名古屋フィルハーモニー交響楽団との共演は今回で5回目。ベートーヴェンのピアノ協奏曲第5番《皇帝》を純粋な音色と堂々たる様式感覚で奏でた。これからも田村さんの演奏を名古屋でもっと聴きたいと思う。



名古屋フィルハーモニー交響楽団定期演奏会(4月20日、21日)
ベートーヴェンのピアノ協奏曲第5番《皇帝》を演奏

ピックアップ



映画とお茶が楽しめる「シアターカフェ」がオープン!

今年4月1日、短編映画とアートアニメーションを上映する「シアターカフェ」が、名古屋市中区大須にオープンした。

運営にあたるのは、「あいち国際女性映画祭」や映画館のスタッフとしてのキャリアを持つ江尻真奈美さんと、短編アニメーションの自主上映会「アニメーションテープス」を10年以上にわたり主宰してきた林緑子さん。上映時間と料金設定などから、一般的な映画館では短編映画の上映が難しいことから、短編映画を上映できる映画館を運営できたらと考えていた江尻さんと、短編アニメーションを上映できる場所を持ちたいと思っていた林さんがお互いの考えを知り、興行的にも金銭的にも2人に可能な形を模索した結果、実現したのがカフェスタイルだった。「カフェならばお茶を飲みながら気軽に楽しめるし、見終わった後に感想を語り合ったりと、映画をとおしたコミュニティづくりも可能なのでは」と林さんは観客と制作者の交流にも期待する。

週末を中心に行われる上映会では、80インチのスクリーンとフルハイビジョン対応のプロジェクター、5.1チャンネルホームシアター用の音響で映像が楽しめる。作品によっては見やすいよう暗幕で空間を区切っているが、江尻さんは「この場所に合う上映形態を試行錯誤している」という。上映会のほか、映像や音楽に関するトークやワークショップ、こども教室をはじめ、取り寄せたスイーツを参加者と共に楽しむ「お取りよせ

の会」などユニークなイベントも開催。オープン当初は知り合いが来るが多かったが、噂を聞いて訪れる方やふらりと立ち寄る方など客層も広がり、最近では上映会のリピーターも少しずつ増えてきているという。

「カフェのフードメニューも充実させたい」(江尻さん)、「学生による短い作品をイベントのない日の夜に上映することも検討できたら」(林さん)と、ますます意欲を見せる2人。若手や学生の発表の場、そして映像を中心とした文化の発信基地として、シアターカフェの取り組みに期待したい。(T)

インフォメーション

シアターカフェ

名古屋市中区大須2-32-24 マエノビル2F

13:00-21:00、火曜日休業

<http://www.theatercafe.jp/>

上映会スケジュール

世界の短編映画 The World According To Shorts

フランス・インディーズ映画事情編

8月11日(土)~17日(金)、鑑賞料1,500円(1ドリンク付き)

※上映時間はウェブサイトでご確認ください

(アニメ×ラマ番外編) コスプレ衣装制作講座 入門編(仮)

8月5日(日) 14:30~、受講料2,000円(1ドリンク付き)



江尻真奈美さん(左)と林緑子さん



シアターカフェ内観

4月29日に行われたイベントの様子
〔「アニメ×ラマ0回」〕

おしらせ

名古屋市文化振興事業団 事業案内・チケットガイドでは各種の事業案内、チケット販売をいたしております。
平日 9:00~17:00 / チケット郵送可 TEL 052-249-9387 / FAX 052-249-9386

Information

2012年(平成24年)第3回 市民半額鑑賞会

中日劇場10月・11月・12月の公演、御園座10月・11月の公演が、通常料金の半額でご覧いただけます。

◆申込方法

往復ハガキに下記の内容を必ずご記入のうえ、8月13日(月)《消印有効》までにお送りください。

往信(裏面)

1. 希望公演番号(1枚1公演・同一番号の複数申込不可)
2. 人数(2人まで) 3. 〒・住所 4. 氏名(ふりがな)
5. 電話番号 6. 車イス席希望の有無

〈返信(表面)〉

ご自分の住所、氏名(宛先) ※氏名には「様」をお付けください。

◆問合せ・申込先

〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目18番1号
名古屋文化振興事業団「半額鑑賞会」係
TEL 052-249-9387

◆主催

公益財団法人名古屋文化振興事業団
社団法人日本演劇興行協会、中日劇場、御園座

◆往復ハガキの記入例

往信(表面)	返信(裏面)	返信(表面)	往信(裏面)
	<p>記入しない (抽選結果を印刷します)</p>	<p>返信(表面) ご自分の氏名 様</p>	<p>往信(裏面) 1. 希望公演番号 (○数字の番号を1つ) 2. 人数(2人まで) 3. 〒・住所 4. 氏名(よみがな) 5. 電話番号 6. 車イス席希望の有・無</p>

※応募結果につきましては、8月23日(木)以降、返信ハガキにて通知いたします。

◆注意

- チケット料金の他に、取扱手数料(1枚につき300円)、払込手数料およびチケット郵送料が別途必要です。
- 車イス席をご希望のお客様は、必ずその旨をご記入ください。

【お知らせ】次回は平成24年12月上旬に2・3・4月分を募集する予定です。

◆公演内容

	演 目	公演番号	日 時	料金・定員
中日劇場	10月 山川豊・香西かおり 特別公演 【出演】山川豊、香西かおり ほか	①	10月16日(火)16:00	■ A席(2階) 12,000円を 6,000円に (各250人)
		②	10月18日(木)16:00	
		③	10月22日(月)16:00	
		④	10月24日(水)16:00	
	11月 梅沢富美男劇団 旗揚げ公演 【出演】梅沢富美男、竜小太郎 大川良太郎、梅沢武生 ほか	⑤	11月20日(火)15:30	■ A席(2階) 8,500円を 4,250円に (各250人)
		⑥	11月21日(水)15:30	
		⑦	11月22日(木)15:30	
		⑧	11月26日(月)15:30	
	12月 吉本爆笑公演 【出演】池乃めだか ほか	⑨	12月 4日(火)16:00	■ A席(2階) 6,000円を 3,000円に (各100人)
		⑩	12月 5日(水)16:00	
		⑪	12月 7日(金)16:00	



	演 目	公演番号	日 時	料金・定員
御園座	10月 中村勘太郎改め六代目中村勘九郎襲名披露 第四十八回 吉例顔見世 【出演】中村勘九郎 片岡仁左衛門、尾上菊五郎 ほか	⑫	10月18日(木)11:00	■ 1等席(2階) 20,000円を 10,000円に (各250人)
		⑬	10月20日(土)11:00	
		⑭	10月21日(日)16:00(予定)	
		⑮	10月23日(火)16:00(予定)	
		⑯	10月23日(火)16:00(予定)	
	11月 北島三郎 特別公演 1. 火消し一代 め組の辰五郎 2. ヒットパレード 北島三郎、魂の唄を… 【出演】北島三郎、星由里子 松村雄基、大江裕 ほか	⑰	11月14日(水)17:00	■ 1等席(2階) 15,800円を 7,900円に (各200人)
		⑱	11月16日(金)12:00	
		⑲	11月24日(土)17:00	
		⑳	11月25日(日)12:00	
		㉑	11月27日(火)17:00	
		㉒	11月29日(木)12:00	



名古屋市民芸術祭2012主催事業 名古屋市民文芸祭

俳句、川柳、詩、短歌、エッセイ、童話・児童文学、フォト五七五の作品を次のように募集します。

応募料 一般(有料) 一口につき **800円**(一人で二口以上の応募も可)を、下記の郵便振替口座または郵便局の総合口座へ振込み、その控えを作品に同封してください。ただし、全応募者に対し一口につき一冊の入選作品集を無料で送付します。

小中学生(無料) ただし、入選作品集の送付を希望する方は、応募時にその旨明記するとともに、700円(送料無料)を下記口座に振り込んでください。

(振込先) 郵便振替口座 名古屋 00870-1-207235 口座名 名古屋市民文芸祭実行委員会
 総合口座 名古屋 12170-16523251 口座名 名古屋市民文芸祭実行委員会
 (ATM利用での総合口座間の送金手数料は9月末まで無料です)

短詩型部門 《一般の部、小中学生の部》
 (第63回名古屋短詩型文学祭)
 【俳句】2句以内 【川柳】2句以内 【詩】2編以内
 【短歌】2首以内
 俳句、川柳、短歌…所定用紙1枚に2句以内を記入し、1人何口でも応募できます。詩…400字詰原稿用紙、1編50行以内、1人何口でも応募できます。
審査員 名古屋短詩型文学連盟会員

エッセイ部門 《一般、小中学生の区分はありません》
 1人1編に限り、400字詰原稿用紙3枚以上5枚以内、(ワープロ・パソコンの場合は1ページ20字×20行で作成) テーマは自由
審査員 山口晃/杉本憩舟

童話・児童文学部門 《一般、小中学生の区分はありません》
 1人1編に限り、400字詰原稿用紙3枚以上10枚以内、(ワープロ・パソコンの場合は1ページ20字×20行で作成)
審査員 中井嘉雄/横井あさ子

フォト五七五部門 《一般、小中学生の区分はありません》
 1人2点以内に限り、A4サイズのプリントに、五七五の句を添える。(句はプリントに焼き込んでもいいし、別紙に書いて添付してもよい。) 作品は、自写・自写と写真の文字以外の合成加工は不可。
審査員 有海千尋/永井清治

記入事項 共通/①ジャンル名を朱書 ②郵便番号・住所・氏名(雅号・ペンネームがあれば併記)ふりがな、電話番号 ※エッセイ、童話・児童文学、フォト五七五については所定用紙に記入してください。
 ③点字作品は訳文を添付してください。
 小中学生/上記に加え、学校名・学年を記入してください。

注意事項 ・作品は近作、未発表に限り、盗作、類似作品、二重投稿は、入賞・佳作決定後でも取り消します。
 ・応募作品は返却しません。

募集期間 8月21日(火)~9月20日(木) <当日必着>
送付先 〒461-8799 郵便事業(株)名古屋東支店留 名古屋市民文芸祭「〇〇」係 ※ジャンル名を記入してください。
賞 [短詩型部門]

《入賞》名古屋市長賞、名古屋市会議長賞、名古屋市教育委員会賞、名古屋市文化振興事業団賞、名古屋短詩型文学連盟賞、中日賞
 《佳作》作品集に掲載しますが、賞状はありません。
 [エッセイ、童話・児童文学、フォト五七五]
 《入賞》名古屋市長賞・名古屋市会議長賞・名古屋市教育委員会賞・名古屋市文化振興事業団賞、中日賞
 《佳作》作品集に掲載しますが、賞状はありません。

発表 入賞・佳作の方には、10月下旬に、各人(各校)あてに通知します。
作品集の刊行 各ジャンルの入賞・佳作作品及び審査講評を収録した作品集(1部700円税込)を刊行します。
問い合わせ 名古屋市民文芸祭実行委員会事務局 TEL052-931-1496(土日祝を除く10:00~16:00)
 〒461-0025 名古屋市中区徳川一丁目720番地 堀之内印刷所内
 名古屋市民文化振興事業団事業案内 TEL052-249-9387(土日祝を除く9:00~17:00)

舞台VTR映像専科

ステージの感動を格調高い映像で追求します。



ビデオソフトの企画・制作

有限会社 **イーワン・ビデオ・システム**
 TEL (052)896-2256 FAX (052)896-4100



ハードシステム部門
 AV機器販売部門(家庭用)
 映像企画・制作部門
 放送関連部門
 機器設備レンタル部門

映像メディアの未来を創る
 生きた情報を発信

TVS 株式会社 **東海ビデオシステム**
 名古屋市中区上筒井二丁目14-15 TEL<052>322-6541(代表) 6562(芸能部)



■ホール舞台音響設備 販売、設計、施工、保守

AV 株式会社 **イーアンドブイ**
 〒464-0846
 名古屋市中区千種区城木町二丁目98
 TEL052(761)5400
 FAX052(761)0909

ファン・デ・ナゴヤ美術展2014 企画募集

2014（平成26）年1月に市民ギャラリー矢田で開催する美術展の斬新な企画を募集します。若手の企画者・美術家の皆さんの「こんな美術展を実現したい」という新しいアイデアを、ふるってご応募ください！

募集要項

- ・市民ギャラリー矢田（東区大幸南一丁目1番10号）にて開催する美術展の企画で、芸術文化の新たな発信源となるような内容の斬新なものを募集します。ファイン・アートだけでなく、デザイン、建築などさまざまなジャンルを対象とします。
- ・美術展の開催期間は平成26年1月7日（火）から26日（日）を予定しています。
- ・使用展示室数は任意（市民ギャラリー矢田の1室または2～3室使用、または全室使用など）です。準備の日数は企画採択後に協議のうえ、決定します。
 - ※複数の企画が採択された場合は、共同美術展となります。実行委員会の一員として、お互いにアイデアを出し合いながら、美術展成功に向け協力していただきます。
 - ※会場利用料金と附属設備料金、企画者への助成金（展示室と企画内容により異なるが、1企画につき10万～30万円程度）、ファン・デ・ナゴヤ美術展のチラシ、記録集の経費を名古屋市文化振興事業団が負担します。
 - ※総合受付要員につきましては1日1名、事業団が手配いたします。

応募資格

- ・平成25年12月末日現在で満40歳以下の方。*出品作家の年齢制限はありません。
- ・国籍、居住地の制限はありません。
- ・企画経験の有無は問いません。

応募の流れ

- ①応募用紙に企画書5部と添付資料（作家資料等）1部を添え下記提出先へご提出ください。
- ②書類選考後、一次審査通過の有無を11月末日までに文書でご連絡します。
- ③一次審査通過後には、12月に開催する二次審査にて企画内容について企画者ご本人にプレゼンテーションを行っていただきます。
- ④企画採択となった方には、展覧会の企画立案、作家との調整など開催までの業務、チラシ・記録集の原稿作成などを行っていただきます。また企画者として、チラシ等の印刷物にお名前を掲載させていただきます。



2012年「緘黙する景色」展 伊藤正人氏企画（第1展示室）
撮影：藤井昌美

審査員

倉地比沙支（愛知県立芸術大学准教授） 小林 亮介（名古屋造形大学学長）
高橋 綾子（名古屋芸術大学准教授） 山脇 一夫（金城学院大学教授） （五十音順、敬称略）

応募期限

- ・郵送の場合 平成24年10月25日（木）消印有効
- ・持参の場合 平成24年10月26日（金）17：00までに下記提出先に持参してください。

企画提出先・問い合わせ

名古屋市文化振興事業団 事業案内「ファン・デ・ナゴヤ美術展」係
〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目18番1号ナディアパーク 8階 TEL052-249-9387
名古屋市文化振興事業団ホームページ <http://www.bunka758.or.jp>
応募用紙は、上記ホームページ内「ファン・デ・ナゴヤ美術展ページ」よりダウンロード可能です。

ファン・デ・ナゴヤ美術展とは
名古屋市文化振興事業団積立基金（文化基金）を活用して平成10年度から開催されています。ファン・デ・ナゴヤ美術展という名称は、名古屋から発信する美術展のファンをひとりでも増やそうという意図と、基金の英訳、foundationを重ね合わせて付けられ、多くの人々に親しまれることを目指しています。

あなたの芸術文化ライフを総合的にサポートします！
公益財団法人名古屋市文化振興事業団

「友の会」会員大募集！

エンジョイコース（年会費 3,000 円）

- ・事業団主催公演チケットの割引販売！
- ・事業団主催公演指定席チケットの先行販売！
- ・「友の会だより」「なごや文化情報」を毎月お届け！など

クリエイティブコース（年会費 15,000 円）

- ・会員主催の公演チラシを事業団管理運営施設へ配送！
- ・会員主催の公演チラシを友の会会員へ配布！
- ・会員主催の公演で事業団の後援名義が使用できる！など

名古屋市文化振興事業団 事業案内
TEL 052-249-9387

名古屋市民会館の名称(愛称)が、平成24年7月1日から変わりました

名古屋市民会館のネーミングライツ・パートナーが、平成24年7月1日から、日本特殊陶業株式会社になりました。これにもなると、施設名、ホール名等が下記のように変わりましたので、ご理解いただきますようお願いいたします。なお指定管理者に変更はございません。

新名称

施設名	にっぽん 日本特殊陶業市民会館
大ホール	フォレストホール
中ホール	ビレッジホール
地下鉄連絡通路	日本特殊陶業市民会館連絡通路

問い合わせ

名古屋市民経済局文化振興室文化施設係
TEL 052-972-3175

「なごや文化情報」編集委員

飯塚恵理人（椋山女学園大学文化情報学部教授）
小沢優子（名古屋音楽大学講師）
倉知外子（オクダ モダンダンス クラスター副代表）
酒井晶代（愛知淑徳大学メディアプロデュース学部教授）
田中由紀子（美術批評／ライター）
はせひろいち（劇作家・演出家）

当事業団の募集する事業にお申し込みいただいた場合の個人情報、当該事業に関する事務連絡及び、当事業団の文化事業に関する案内のみに使用させていただきます。

まちの音楽家シリーズコンサート2012

あつとそこまで!あなたの街で! 楽しい音楽につつまれる!

どの文化小劇場でも全公演のチケットをお求めいただけます。

2008年にスタートした「まちの音楽家シリーズ」コンサート。5年目の今年も文化小劇場13館を会場として、地元で活躍する優秀な演奏家たちによる“地域密着型”のコンサートを開催します。
お値打ちな料金で質の高い生演奏と演奏家による親しみやすいトークをお楽しみいただけます。ぜひこの機会にお近くの文化小劇場にお出かけください。

9/26(水) 中村文化小劇場(052-411-4565)
地下鉄東山線「中村公園」北へ徒歩10分
13:30 開演 一般1,000円 中学生以下500円

水上弥生の民謡革命
～民謡からMINYOへ～
やゆ fish [水上弥生 魚住英史]
(民謡・津軽三味線)
北は北海道から、南は沖縄までの民謡を幅広くお送り致します。
未就学児入場可



10/17(水) 西文化小劇場(052-523-0080)
地下鉄鶴舞線「浄心」南へ徒歩3分
13:30 開演 一般1,000円

～JAZZ Cafe～
小林美千代コンサート
小林美千代 (ジャズサクソフ)
未就学児入場不可



11/3(土) 中川文化小劇場(052-369-1845)
あおなみ線「荒子」より南へ徒歩1分
13:30 開演 一般1,000円 小・中学生500円

あおなみコンサート
夫婦で奏でる
ヴァイオリンデュオ
中川香 松本一策
(ヴァイオリンデュオ)
未就学児入場不可



11/21(水) 熱田文化小劇場(052-682-0222)
JR[熱田]/地下鉄「神宮西」/名鉄「神宮前」
13:30 開演 一般1,000円

悠情 ヴァイオリンコンサート
～悠情楽団による
ヨーロッパの街角、
北欧とケルトの世界～
悠情楽団
(アイリッシュジャズ)
未就学児入場不可



9/17(祝) 北文化小劇場(052-910-3366)
地下鉄名城線「黒川」北へ徒歩12分
13:30 開演 一般1,000円 中学生以下500円

UNIT 7 おーたむ JAZZ コンサート
～小さい秋
みつけた!～
UNIT 7 (ジャズ)
曲目: Out of blue
ポパイマーチ
村祭り 他
未就学児入場可



10/3(水) 天白文化小劇場(052-806-8060)
地下鉄鶴舞線「原」2番出口すぐ
13:30 開演 一般1,000円

**カンツォーネ・
シャンソンコンサート**
～一度聴いたら忘れられない
感動の歌声をあなたに～
佐野文彦 (ヴォーカル)
北川美晃 (ピアノ)
未就学児入場不可



10/20(土) 南文化小劇場(052-823-6511)
市バス「千蔵通2丁目」停下車すぐ
13:30 開演 一般1,000円 中学生以下500円

**和太鼓倭人会
公演**
倭人会 (和太鼓)
未就学児入場可



11/7(水) 緑文化小劇場(052-879-6006)
地下鉄桜通線「徳重」2番出口すぐ
13:30 開演 一般1,000円

**堀之内理恵 バロック
ハープ&アイリッシュ
ハープコンサート**
堀之内理恵
(バロックハープ・アイリッシュハープ)
未就学児入場不可



11/28(水) 名東文化小劇場(052-726-0008)
地下鉄東山線「上社」1番出口すぐ
13:30 開演 一般1,000円

**"pansonido"
LIVE!** pansonido
(スティールパン)
ドラム缶から作る楽器
スティールパンの
賑やかなカリビアン
サウンド!
未就学児入場可



9/22(土) 港文化小劇場(052-654-8214)
地下鉄名港線「港区役所」南へ徒歩3分
10:00 開演 一般1,000円 中学生以下500円

BIRTH ファミリーコンサート
～PLAY THE
PERCUSSION～
BIRTH (マリンバ&
パーカッション)
曲目: ディズニー
メロディー 他
未就学児入場可



10/10(水) 千種文化小劇場(052-745-6235)
地下鉄桜通線「吹上」北へ徒歩3分
13:30 開演 一般1,000円

アカペラに包まれたなら
Queen's Tears Honey
(女性6人のアカペラ
グループ)
女性だけで奏でるリズム
は必見必聴。
未就学児入場可



10/31(水) 守山文化小劇場(052-796-1821)
名鉄瀬戸線「小幡」下車すぐ
13:30 開演 一般1,000円

**伊藤わか奈
ピアノリサイタル**
～秋を彩るクラシックの調べ～
伊藤わか奈 (ピアノ)
曲目: ベートーヴェン ピアノソナタ
第23番「熱情」 他
未就学児入場不可



11/14(水) 東文化小劇場(052-719-0430)
地下鉄・ゆとりとライン「ナゴヤドーム前矢田」
13:30 開演 一般1,000円

鍵ハモ de 音楽会
Flying Doctor
(鍵盤ハモニカ・
ピアノ・ヴァイオリン・
パーカッション)
未就学児入場不可



託児サービスをご利用ください。
[NPO 法人 わが家流子育て応援団ふりあん]が
お世話いたします。
未就学児 (満1歳以上) 対象。
お子様1人あたり
託児500円
公演一週間前までに電話
でお申込みください。
TEL 052-249-9387

ぼくのマークがある
公演に託児サービス
があるよ!



チケット取扱(全自由席)

- ・名古屋市文化振興事業団チケットガイド TEL 052-249-9387
(平日 9:00～17:00/チケット郵送可)
※友の会会員は1割引(前売りのみ)
※購入時に一日乗車券・ドニエコきっぷ提示は1割引
- ・名古屋市文化振興事業団が管理運営する文化施設窓口(東山荘は除く)
- ・チケットぴあ[Pコード:171-799] TEL 0570-02-9999
サークルK・サンクス、セブン-イレブンでも直接お求めいただけます。
※10/20 南文化小劇場「和太鼓倭人会」はチケットぴあでの取扱はありません。

5公演同時購入特典(一般のみ) 1,000円 → 700円

13公演のうち、5公演以上同時購入の場合、特別価格でお求めいただけます。
名古屋市文化振興事業団チケットガイド、名古屋市文化振興事業団が管理する文化施設窓口(東山荘を除く)での取扱いのみ

主催  名古屋市文化振興事業団、各文化小劇場

